

# 墓山古墳出土の蓋形埴輪

－免山篤コレクション－

竹原 千佳誉

## 1. はじめに

茨木市の郷土史研究家免山篤氏が、生涯において収集した資料が当館に寄贈された。これまでに、テーマ展「茨木に眠る資料－免山篤コレクションを中心に－」にて資料の一部が公開されているが、寄贈された資料は膨大な数にのぼる。

そのコレクションのなかには、大阪府羽曳野市に所在する墓山古墳の形象埴輪が含まれており、家形埴輪、蓋形埴輪、盾形埴輪、鞍形埴輪、草摺形埴輪、不明形象埴輪を確認した。

なお、これらの埴輪は『大阪府の埴輪』（野上 1982）において紹介されているものである。

墓山古墳の埴輪は、5世紀代の大王墓に樹立された埴輪を検討するうえで大変重要であるため、本稿では、免山篤コレクションの形象埴輪のうち、

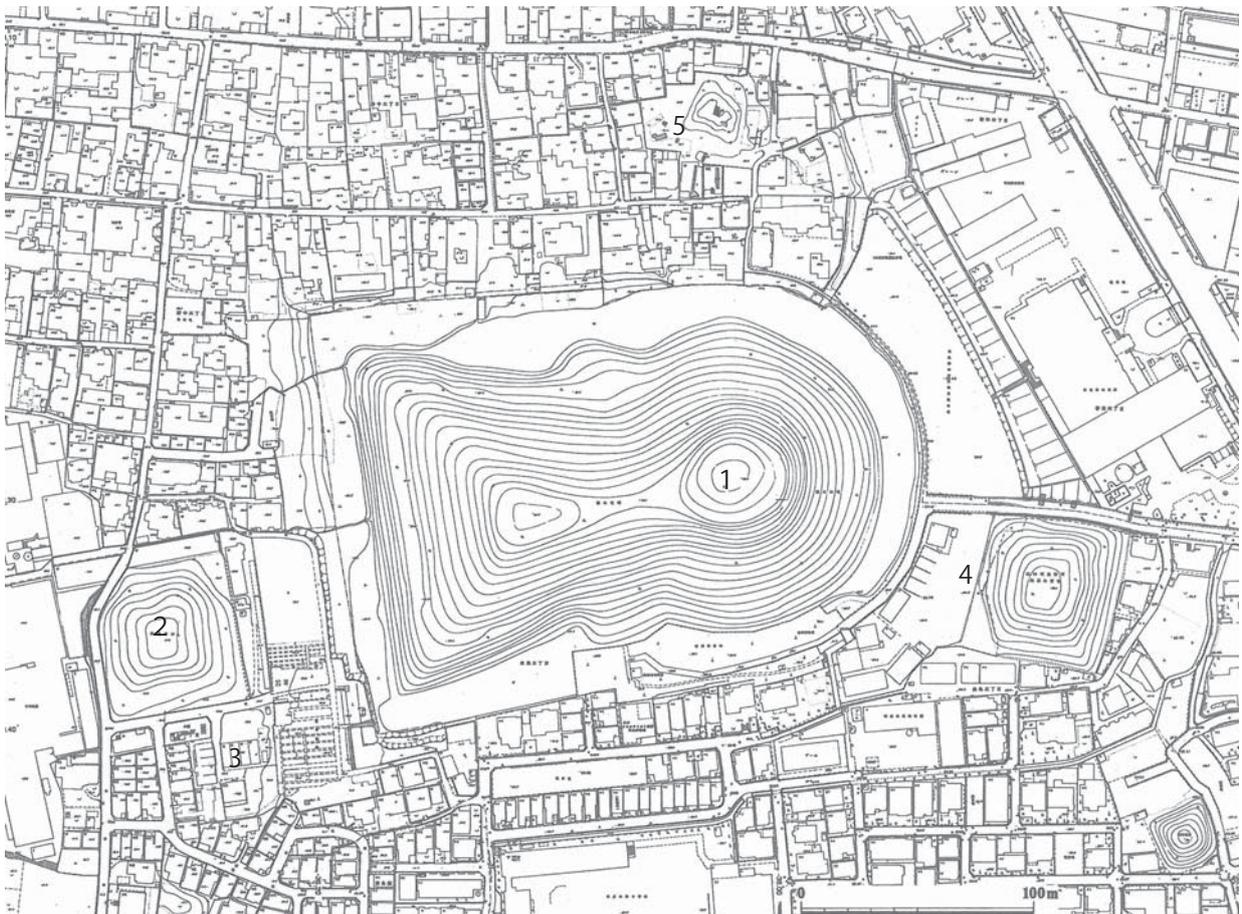
蓋形埴輪について資料の紹介をおこなう。

## 2. 墓山古墳について

墓山古墳は、古市古墳群、羽曳野市白鳥3丁目に所在する全長225m、3段築成の大型前方後円墳である。両くびれ部には造出しをもち、墳丘周囲に濠と堤をもつ。

周辺には向墓山古墳（方墳・68m）、西墓山古墳（方墳・20m）、野中古墳（方墳・37m）、浄元寺山古墳（方墳・67m）の陪塚が築造されている。

墓山古墳の副葬品は不明だが、外堤の円筒埴輪が、野焼き焼成と穴窯焼成が混在しているため、川西円筒埴輪Ⅳ期、円筒埴輪共通編年Ⅲ－2と推定される。



1 墓山古墳 2 浄元寺山古墳 3 西墓山古墳 4 向墓山古墳 5 野中古墳

図1 墓山古墳位置図（藤井寺市教育委員会 1997 を改変）

### 3、墓山古墳出土の蓋形埴輪

蓋形埴輪（第2図1～4、写真3～10）

これまでの調査では、蓋形埴輪の一部が確認されているが、立飾部の詳細はわかっていなかった（藤井寺市教育委員会 1997）。免山篤コレクションの蓋形埴輪は、立飾の残存が良好な破片が1点、小破片が2点、笠部が1点である。

1は笠部である。破片の残存は、高さ7.7 cm、幅7.35 cmである。突帯には、左上がりのヘラ状

工具による刻み目がある。

内面はやや内湾し、わずかに円筒部との接合部と考えられる痕跡がみとめられる。そのため、1は笠部中位突帯部と推定できる。

2は、立飾部の小片である。高さ5.1 cm、幅7.3 cm、厚さ1.7～1.8 cmをはかる。両面に2本の線刻が認められるが、小片のため位置は不明である。

3は立飾部である。高さ8.35 cm、幅7.1 cm、

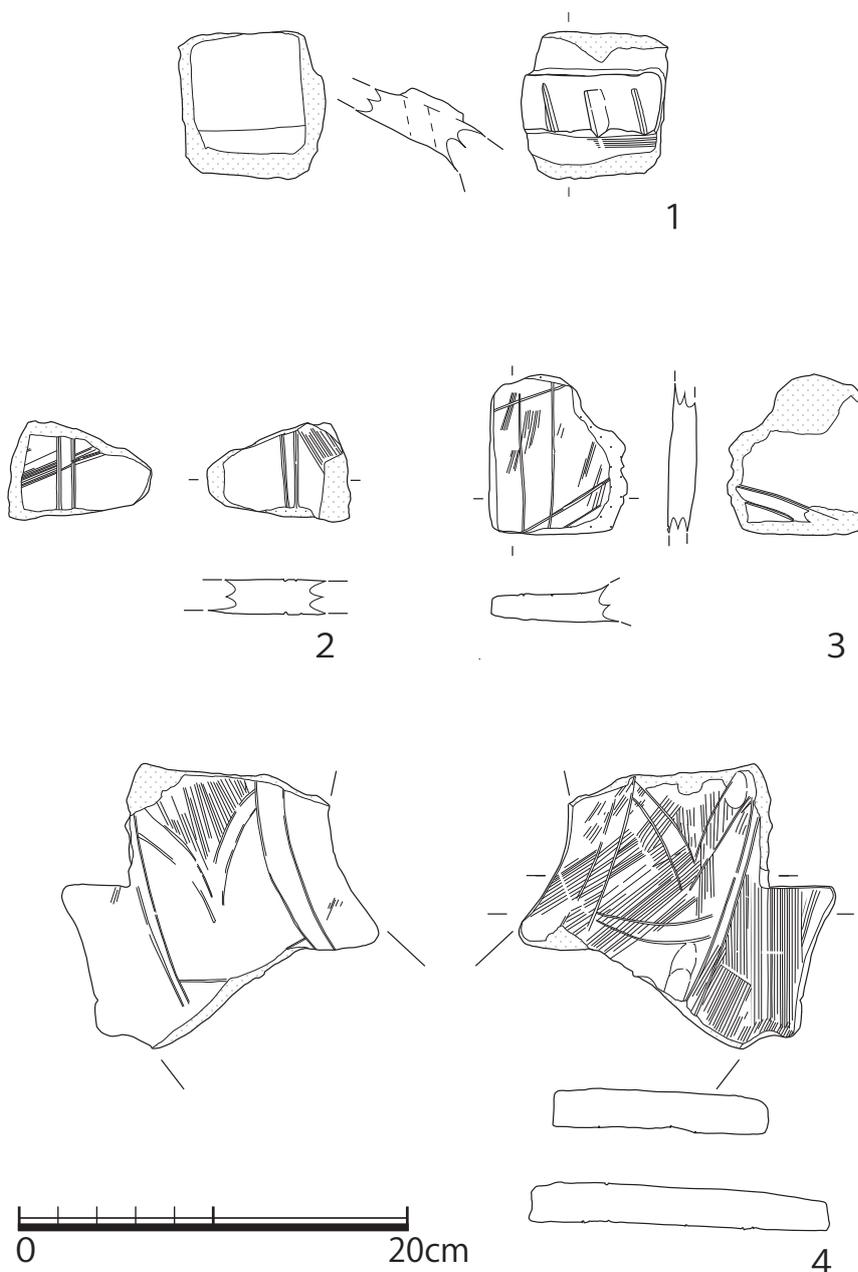


図2 墓山古墳出土蓋形埴輪

厚さ1.3～1.9cmをはかる。両面に線刻があるが、表面が荒れているため線刻、調整ともに不明瞭な部分がある。表と裏の文様が異なるようにみえるが、器壁の荒れのためであり、本来は両面に同様の線刻があったと考えられる。

4は立飾部である。残存は良好で、飾板と鱗部が確認できる。高さ10.4cm、幅15.5cmをはかる。線刻は中央部にV字を描き、その下に二条の横方向の線刻を施す。外面が荒れているため調整不明瞭な部分がある。

以上、点数は4点だが、墓山古墳の蓋形埴輪の復元(図3)をおこなった(註1)。

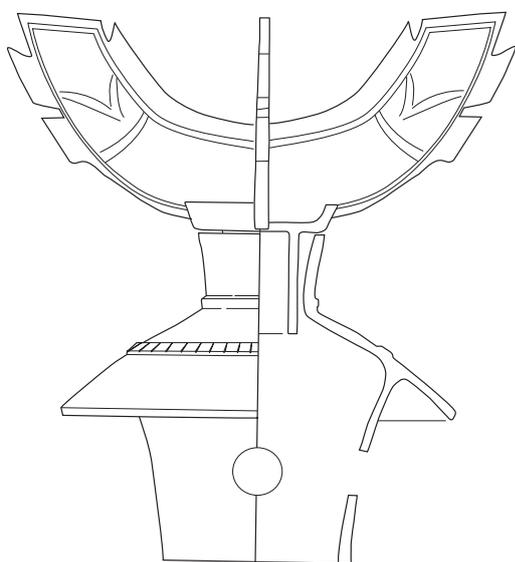


図3 墓山古墳出土蓋形埴輪復元図

#### 4、墓山古墳出土の蓋形埴輪と類似する資料

立飾は、上端部が確認されていないため、形状からの判断は難しいが、線刻をみると中央部にV字を描き、それを二条の横線によって仕切る。この文様構成の類例は少ない。(註2)

立飾の文様は、五線帯文、鍵手文に分類され(小栗2007)、基本的には本来の文様が簡略化されていくが、墓山古墳の立飾の文様は、どちらのタイプにもみられない構成である。

また、笠部についても、笠部中位突帯に刻み目がつくものは、蓋形埴輪のなかでも類似する資料は少ない。

そこで、墓山古墳とその陪塚である野中古墳、西墓山古墳の蓋形埴輪の立飾部と笠部を比較してみよう。

#### (1) 立飾部

墓山古墳の立飾部(図2-4)の形状についてまず、注目したいのが外側鱗である。残存している鱗の上部には、最大0.85cmの幅の残存面があり、その上からは破損している(写真1)。

さらに、飾板部の線刻は周囲を2重の線で区画するが、4の線刻は鱗部の上部で破損部分へと繋がっている(写真2)。これらを勘案すると、この破損部には鱗がついていたと考えることができる。さらには、飾板の内側端部から2本の線刻までの距離が空いていることも特徴的である。

これらの特徴から導き出せる墓山古墳の立飾

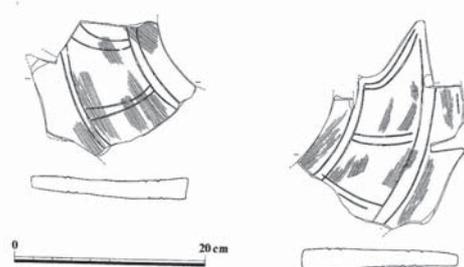
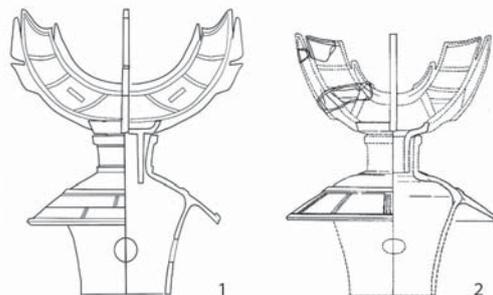


図4 野中古墳出土立飾部(藤井寺市教育委員会1997)



1野中古墳 2西墓山古墳

図5 野中古墳・西墓山古墳の蓋形埴輪  
(1 橘2014改変 2 藤井寺市教育委員会1997)

部の形状(図3)は、野中古墳の蓋形埴輪(橘2014)(図4、図5)と酷似する。

一方、西墓山古墳の蓋形埴輪の復元では(藤井寺市教育委員会1997)、外側鱗は1つであるため、墓山古墳と野中古墳の蓋形埴輪とは様相が異なる(図5)。

このように、墓山古墳と野中古墳の立飾部の形状は同じであるものの、飾板部の文様は異なっている。では、次に飾板の文様について検討してみよう。飾板の文様は、五線帯か鍵手文が形態変化

したものとする(小栗 2007)。墓山古墳の文様は横方向の2本の線刻があり、その上にV字の線刻を施す。一方、野中古墳出土例でも、横方向の線刻は入るが、その間にはV字の線刻はみられない。西墓山古墳例も、2本の横方向の線刻が入るがその上または、下にV字の線刻はみられない。

このようなV字の線刻をもつものを検討したところ、管見では岸和田市馬子塚古墳出土の蓋形埴輪、立飾部と考えられる破片(図6)が、文様構成が類似している。

馬子塚古墳は一辺約35mの方墳で、摩湯山古墳の陪塚と考えられる。時期は円筒埴輪の特徴から、円筒埴輪共通編年Ⅲ期の古墳とされる。

図6は蓋形埴輪の立飾部と考えられるが、文様が直線的で立飾の湾曲する形状とはやや異なる印象をもつ。また、両面に線刻を持つため、蓋形埴輪の立飾の可能性はあるが、他の器種の可能性も考える必要があろう。しかし、V字を配する文様は酷似しており、墓山古墳の蓋形埴輪の文様は、馬子塚古墳の埴輪製作にかかわった工人の技術的な系譜を引くなど、なんらかの影響を受けたとしたい。

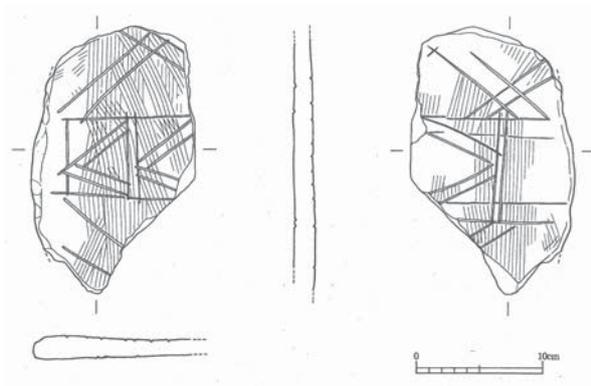


図6 馬子塚古墳出土蓋形埴輪(上林 1998)

## (2) 笠部中位突帯

墓山古墳出土の蓋形埴輪は、笠部中位突帯部に刻み目をもつ。しかし、周辺の陪塚では同じ形状のものは見られず、立飾が同型の野中古墳においても、笠部中位突帯には刻み目はもたない(図7)。

そこで、古市古墳群内で検討したところ同型のものは、管見では藤井寺市中津山古墳出土例(図8)が類似していることがわかった(註3)。

中津山古墳は、全長290mの前方後円墳である。円筒埴輪の特徴から円筒埴輪共通編年Ⅲ-2期と

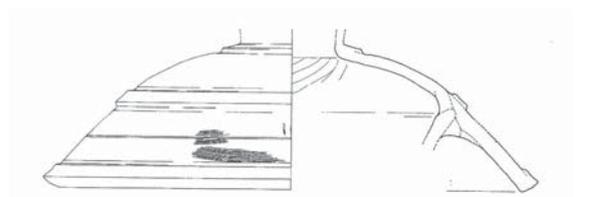


図7 野中古墳出土蓋形埴輪(藤井寺市教育委員会 1997)

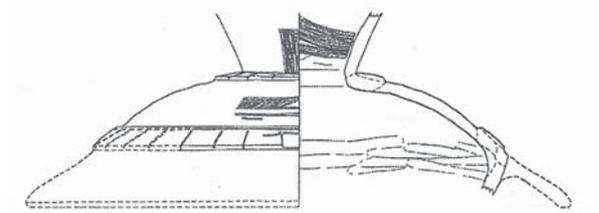


図8 中津山古墳出土蓋形埴輪(藤井寺市教育委員会 1997)

される。両古墳が古市古墳群における大型前方後円墳という点や、時期的関係についても注視しておかなくてはならないところである。

こうした、同地域内での細かな違いについては器財埴輪の生産と供給がどのように、地域で展開していくのかを明らかにするためには、重要な課題であるため別稿で改めたい。

## 5、まとめにかえて

墓山古墳の蓋形埴輪は、立飾部の形状が野中古墳のものと酷似するものの、飾板の文様は異なる。飾板の文様は馬子塚古墳出土の立飾部に似ている。この、馬子塚古墳の文様を継承しているのは、墓山古墳の立飾のみである。

さらに、蓋形埴輪の笠部中位突帯についても、刻み目をもつタイプは、類例が少ない。

本稿において検討した、墓山古墳と周辺の陪塚の埴輪が、形状が類似していても文様が異なるなど、細かな点ではあるが違いがみられた。

こうした違いが工人差に起因しているとするれば、馬子塚古墳の埴輪製作にかかわった工人は墓山古墳の蓋形埴輪製作にもかかわっていたか、その系譜をひく集団であったのか等、検討の余地がある。

細かな違いではあるが古墳時代中期の器財埴輪の研究において重要な視点となると考えている。今後の検討課題としたい。

## 註

1) それぞれの形状から、これらが同一個体かはわか

らない。ここでは、同一固体様に復元している。

2) この文様が、蓋形埴輪の文様としては類例がないため、他の器種の可能性を検討した。たとえば、板状で鱗をもつものを想定できるのは、船形埴輪である。しかし、船形埴輪の舷側板は両面に線刻は施さない。また、船底部がつく部分に剥離痕がみられない。これらのことから、類例ない文様をもつ、蓋形埴輪の立飾部と判断した。

3) 同タイプのもは、奈良市杉山古墳からも出土しているが、本稿では古市古墳群とその周辺に地域を限定して検討しているため、俎上にはあげていない。

#### 参考文献（五十音順）

小栗明彦 2007a 「蓋形埴輪編年論」『埴輪論考 I - 円筒埴輪を読み解く -』大阪大谷大学博物館報告書第 53 冊 pp. 153-226

小栗明彦 2007b 「蓋形埴輪の地域色発現 - 畿内の事例 -」『埴輪論叢 - 奥田尚先生還暦記念号 -』第 6 号埴輪検討会 pp. 115-136

上林史郎 1998 「付章 馬子塚古墳出土の遺物」『摩湯山古墳発掘調査報告書』大阪府埋蔵文化財調査報告 pp. 21-33

橘泉 2014 「野中古墳の形象埴輪」『野中古墳と「倭の五王」の時代』大阪大学総合学術博物館叢書 10 大阪大学出版会 pp. 80-83

三木弘 1999 「第 2 節 遺跡内所在古墳の調査」『土師の里遺跡 - 土師氏の墓域と集落の調査』大阪府教育委員会 pp. 141-146

野上丈助 1982 『大阪府の埴輪』大阪府立泉北考古資料館

藤井寺市教育委員会 1997 『西墓山古墳』



写真 1



写真 2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10